

またぞろ怪文書が出廻り始めた。怪文書の卑劣なところは自分の名を名乗り出ないところ。表現の自由とは言っても自分の名を隠して一方的に責めるのは、そこに一部の真実や事実があっても潔しとはしないだろう。相手にそれなりの打撃を与えながら、自分は陰に隠れてほくそ笑む。これは卑劣以外の何ものでもない。戦うのであれば自分の名を名乗り、堂々と宣戦布告すべきであり、それは国際法上のルールであり、日本人が昔から持つ侍魂として大切にしてきた美德でもある。

私は実名で追及する為、名誉毀損で訴えられる事が多々ある。しかしそれは私の信念に基づき、名誉毀損とその人が犯したと思われる不正を秤にかけて、名誉毀損を遥かにオーバーする内容と判断した時に記事に書くわけであって、勿論暴露を旨としている為、通常の事後だけの発表を旨とする新聞とは多いに主張は異なるのであるが、その責任の覚悟は常に持って、記事作成に臨んでいる訳である。例えて言うなら、私の記事が果し合いを申し込んでいるのに比べて、怪文書は闇夜に後から斬り付けているようなものである。

まあ、怪文書に対する意見はこれ位にして、この文章で感じた事を二、三申し上げる。先ず我々が抗議活動をした時も、誰一人として学内から表向き手を上げる人はいなかった。それらの理由らしき事については過去に当社千里眼で述べたのでここでは省略する。佐伯大澤体制が三十年前の総長によるワンマン体制に戻る、と危惧しているが、時代がそのような体制を受け入れる時代でない事は世の中を見渡せば分る事だろう。我々が矛を収めた理由も、不正を疑われているような諸問題の真相を究明し、学内浄化に努めるという大学側の言葉を信じての撤退である事は過去に表明した通りである。

学内は政治の場ではないので、二つや三つに割れる事は決していい事ではないだろう。自分の意見が通らないからとか、人事で不満とか、そんな事を根に持ち怪文書にしない方がいい。「聴く耳を持つ」というのが今後の佐伯大澤体制の特徴になろう。現実に関が指摘した原田問題でも原田は逮捕されたし、スクールバス問題でも料金は無料になった。だから私は今後も教職員、OBからの意見は吸い上げていく。いい物はどんどん取り入れ助言するし、不正と思わ

れるものは追及していく。

この怪文書犯は二つの大きな取り返しのつかない間違いを犯している。一つは、右翼の抗議行動を利益供与で解決し、訴訟を取り下げた、とある。私も攻めた側の一翼を担っている。訴訟対象者は国土会の鈴木君である。もし金が入ったというなら最終的決断を下した者達、つまり私も疑われている一人になる。こういった邪推を元にした怪文書に基づき藤元先輩や野口先輩の下には酔った勢いで「幾ら貰ったんですか」と聴いてくる不良もいるらしい。

最初から手弁当で戦い、利権に結びつく解決はしない、が全員一致した意見だったのだ。学校側の抱えた弁護士の素性を見れば一目瞭然である。不正な手打ちを受け入れる人達ではないし、我々もそれを知ってて戦ってきた訳だから前から後から斬っても斜めに斬っても利益供与は存在しえない話なのである。我々は名誉を重んじ、時には男を売って生きている集団である。今回、四十数団体が加盟しての抗議行動であって、この怪文書はその全ての団体に対しての挑戦ともいえる発言である。必ず見つけ出して、それなりの責任を取ってもらう事になるだろう。

もう一つは大澤先生に対して安高常務刺殺事件の実行犯を煽り、犯行を教唆したと、断定して書いてある事である。教唆という罪は時に実行犯より重かったりする位の罪である。大澤先生はこの件で逮捕されてもいない訳だから殺人教唆という看過しえない罪で断定する事は明らかに名誉毀損に当る。そして大澤先生がこの件で刑事告訴すれば、確実に当局は受理する事になるだろう。当局が動けばこういった犯人は直ぐに足が付くだろう。

学内の噂では前例もあって、この怪文書犯はN氏だろう、との噂が専らであるが、私自身はN氏のよさも知ってるだけに、それはないと思っている。聴く耳を持つ透明性のある校風を目指してスタートしたばかりの体制に対して、不満の火種ばかり撒き散らしては誰からの支援も受けられなくなるだろう。もう少し心を開いて正しい民主化を目指した方がいいと思うよ。何度でも言うが、学内は政治や宗教の場ではない。教職員の本分を全うすべきだ。

白 倉 康 夫